

地球オアシス(連載6)

札幌大学名誉教授 金子利喜男

1 構想の沿革

まず地球オアシス構想について、その経緯から伝えたいとおもいます。この構想のきっかけとなったのは、2013年の北東アジア共同体平和機構（北東ア機構）の設立で、同憲章第53条は、北東アジアのいろいろな都市に平和福祉友好館の開設を予定しております。（注1）

憲章は、下記のように、北東ア機構が包括的な性格をおびるよう定めています。すなわち、

われらは、ここにいたって、超党派、超宗派、超民族的、全人類的精神に立脚する「北東アジア共同体平和機構憲章」を締結するため、それに賛同するむねの意志を表示した。

「全人類的精神」というのは、北東ア機構が、将来設立予定の太平洋共同体友好機構（略称、太平洋機構）とは双子のような関係にあって、地球連邦共同体友好機構（略称、地球機構）とも、いわば家族的にむすびついていることを含意しています。太平洋機構も、また地球機構も、いずれ将来創建できればと期待しているものですが、これらの憲章は、いずれも第53条で、平和福祉友好館の創建について、脚注のような趣旨をほぼ同文で規定しております。北東ア機構、太平洋機構、地球機構は、いうなれば、人類の巨大な家族的なものとして想定されているのです。これらの憲章は、有機的な友好関係を重視しています。（第96条、注2）

(1) それは、つぎのように定めている。

第53条（平和福祉友好館） 1 関係国は、みずらも出資し、その出資比率にかかわらず、相手側の友好自治体または他の主体が管理運営できる包括的機能の平和福祉友好館が、共同体内の友好自治体内にそれぞれ建設されることを促進する。

2 関係国が、この憲章に署名しないあいだ、この機構の会員が、独自にまたは共同体内の自治体、その他の出資者とも協力しあって、個別的または包括的な平和福祉友好館を建設するよう努力する。

3 このような会館は、公的または私的に北東アジアの多くの都市または場所に建設されることができる。この会館には、世界のいろいろな国からの国際団体と個人も同居できるようすることが望ましい。

(2) **第96条（共同体機構間の協力）** この機構は、世界平和を強化し、諸民族の友好と協力を促進するため、他の類似共同体機構と下記のような有機的関係を維持しなければならない。

a. 各共同体機構は、つねに平和的、友好的かつ協力的な関係を強化しなければならない、同時に他の地域的機構にたいしても、そのような関係を維持しなければならない。

b. われらが機構は、できるだけ他の共同体機構に類似している目的と機関を維持し、連携をとりやすくすると同時に、他の共同体機構の経験をも考慮する。

2 平和福祉友好館

2013年3月、私が71歳で札幌大学を退職した直後、北東ア機構の創立だけでなく、平和福祉友好館の設立にも着手したので、本当に大変でした。(注1)

ついに2014年、北東ア機構のひとつの目玉、平和福祉友好館がいちおう建設され、それが



平和福祉友好館の1号館

第2回国際大会、ホームステイなどのため利用されてきました。第2号館は、既存の中古マンションを購入して開設しましたね。第3号館については、できるだけ**体育系の施設と補完関係を維持**しつつ、札幌市と北海道を国際的で創造的なもの、魅力的で活力のある地域に変える構想がよいと考えるようになりました。

3号館の建設については、北海道、ロシア、韓国の民間会社や個人に話かけていきましたが、簡単ではありませんでした。第1、言葉や考え方がちがう。

そこで考えたのは、このような大事業では、小生の独特な**共同体構想からは原則的に独立した宿泊施設**、すなわち全札幌、全北海道的、全北東アジア的、全太平洋的、全地球的性格のもの、すなわち、「**地球オアシス**」(仮称)も選択肢になりえる、ということです。(注2)

「地球オアシス」系は、「平和福祉友好館」系よりも包括的かつ一般的であって、両者間に多少距離があるものと想定しています。系列はちがっても、内実は共通点が多くでてくるでしょう。平和福祉友好館は、上掲の写真のように、外壁は万国旗でかざられ、あるいは地球の南半球側がハートの図柄でおおわれているものになるでしょうが、それら地球オアシス系が使用することは絶対ダメということにはならないでしょうね。むしろ両系列間の調整で、それらの多彩な変形が出現するほうが、おもしろいでしょう。



地球オアシス構想は、機会があるたびに、それに注目を喚起しました。まず宣伝カーの3面に地球オアシスを印字し、毎日のように街中を走っています。最近は、「**地球オアシス推進仲間**」を中心に勉強会をはじめました。

北海道では、まず第1に札幌市と根室市に、それから他の市町村に地球オアシスを開設できればとおもっており、札幌ではアイヌ民族や世界の先住民族の文化交流の宿泊拠点として、全世界的かつ全人類的な性格をもつ「**地球オアシス・ピリカ**」はどうか、と提言しました。(注3)

-
- (1) というのも、海外の関係者が、北東ア機構設立の国際大会に多数参加しやすいように考慮して、自宅でのホームステイだけでなく、この会館でも宿泊してもらおうと考え、過密ダイアになったからですね。会館建設は、私の空き地に同年8月22日の国際大会に間にあうよう完成予定でしたが、できなかったのも、6名の外国人は、私の茶室、居間、2階の書斎や娘の部屋、友人や学生の家でホームステイしました。
 - (2) 2015年、拙著「北東アジア共同体平和機構」(第2版)を公表した当時は、平和福祉友好館とならび「地球センター」との言葉を使い始めたのですが、あちこちに「センター」があるというのは変な感じがするので、結局、「地球オアシス」と呼称するようになりました。
 - (3) **地球オアシス・ピリカ** 地球オアシス仲間、武山眞路氏が、札幌アイヌ文化センターを訪問したさい、そこで驚いたのは、これが大なる可能性をもちながら、十分に活用されていないことでした。ここで私が提案するのは、**協議会の設置**、その成員は札幌市、札幌市アイヌ文化交流センター、同センター利用者、他の関係者および成員希望者で、協議会が検討すべきは、バスでのアクセスと無料送迎バス、センターの敷地内外でセンターが管理する温泉、センター敷地内外でのアイヌ民族による民泊事業(ホームステイ型、家主不在型、民泊ホテル型)、全世界的かつ全人類的な性格をもつ「地球オアシス・ピリカ」の開設です。この提案は、地球オアシス提案仲間と、さらに具体的に立案したいとおもいますね。

3 地球オアシス、その1は都市型

全道、全日本、全地球的に地球オアシスを随所に創建しましょう!!

地球オアシス仲間規約は、第1条（目的）第1項で、「全地球的な一体系を勘案し、その機能が国際宿泊である地球オアシスを開設する。余裕があるなら、これは文化、体育、その他の分野の空間を併設することができる。」（6頁の脚注）とさだめています。

地球オアシスの形態は、国、場所、時期、資金などにより、多種多彩なものでよいでしょう。廃校や休業温泉、空き室や空き家など、もしそれらが住宅宿泊として利潤があがるなら、それを小規模でも活用できるでしょう。ここでは高収益をみこめる都市型の一例をしめします。（注1）

フロアの伸縮 資金と参加者が多いなら、階層を高くし、有料ホームステイ、家主不在型宿泊、民泊簡易宿所、マンスリー、民泊ホテル、ふつうのホテル、ゲストハウス等を追加したいですね。民泊が市民権をえたからには、地球オアシス仲間や地球ホームステイ仲間（5頁）、それに地球平和友好強化仲間が地球オアシス創建の牽引力となり、そして上層部分に住んでくださると幸甚です。

（1）下図は、それなりの資金がある場合ですが、なければ数階に縮小せざるをえないでしょう。

5階以上：ホテル、ゲストハウス、住宅宿泊（ホームステイ）、留学生や諸民族の個別の部屋

- A. ほぼ全フロアを宿泊施設とし、内外のスポーツマン、一般の外国人、留学生、国際的な商社マンらが利用しやすいように配慮。小さな喫茶店あり。
- B. 外国風の部屋、アイヌ民族をふくむ各国の先住民族または少数民族の空間
- C. 外国人が札幌市でホームステイを体験できるようにするために、和風の2LDK、3DKをそれぞれ何室かをもうける。近隣の大学生用にも、数部屋を確保。

4階：各地域別および国別の空間または事務所

- A. 北アメリカ、南アメリカ、太平洋オーストラリア、北東アジア、南西アジア、アフリカ、中近東、欧州などの地域別の空間、または国別の部屋を設ける。
- B. どの分野（経済、文化、または他）に利用するかは、その利用者の意向を尊重。

3階：各種の発表ができるステージ、観客席、映画、FM ラジオ放送

- A. ステージでは、各種の歌舞、演劇（外国語の台詞は和訳の字幕）、講演など。
- B. 正面はスクリーン、音響設備やOHPも使用可、楽屋、同時通訳の備品あり。
- C. この会館所在のFMラジオは、「地球愛FM札幌」（仮称）とする。
 - a. これは地球愛FM社が保有し、その運営と管理にあたるも可。
 - b. 北海道の食、観光、経済、文化、体育系施設の催事の海外への紹介。

2階：文化、言語、スポーツなどの多目的ホール（下記の文化活動はフロアが木製）

- A. 歌舞（邦楽、洋楽、童謡、ジャズ、ロック、バレエ、フラダンス、カラオケ）
- B. 日本語、世界の主要言語の教授（語学教室）
- C. スポーツ：剣道、柔道、卓球、太極拳、テコンドー、ヨガ、パ
ラリンピック用の部屋など。
- D. 囲碁、チェスなど。世界の児童用遊戯（札幌ドームに来場する大人の子供用）
- E. シャワー、小さな公衆浴場、サウナ、外国風サウナなど。



1階：茶室、和食、喫茶店、回転民族料理、民族レストラン、外国商品、日本土産

- A. 入り口から入った正面に茶室、（催事があるときは、ここで訪問者をもてなす）。
- B. 日本料理を中心とする。ユネスコで日本料理が登録されたことを考慮して。
- C. 回転民族料理も1階の一大特徴で、おもに寿司、ときおり諸民族の典型的料理のサンプルが

回転。その試食で気に入れば、即座その民族レストランに直行可。

4 ホテル側とも協力関係

民泊応用のホテルも 前頁を原図とするならば、6階以上は、ホームステイ型民泊だけでなく、投資型民泊を活用し、有益かつ興味ぶかい上層の階を構築できると考えています。

- 1) **ホームステイ型民泊** 住宅宿泊事業法（民泊新法といわれていたもの）は、今春の国会で採択されるかもしれません。これは年間 180 日以内の有料ホームステイを認めていますから、地球オアシスで引受家庭が、皆おなじ階でお客を歓迎するならば、近隣問題は少なくなるでしょうし、そのみならず、運営の仕方しだいでは、ここはすばらしい民間交流と友好平和の空間になる可能性を宿していますね。まさしく国家間の対立の対極として、それを超越し、諸民族の相違を超克した喜びや笑顔、楽しさの新風を世に送ることもできます。
- 経済的負担の軽減** さらに注目すべきは、地球オアシスで有料ホームステイ宿泊を試みる挑戦者は、銀行から融資をうけるさい、より有利な地位にあるだろう、ということです。なぜなら、ここでは居住そのものから一定の利益（宿泊料）をえることができるからです。数室だけ多い分譲マンションを購入しても、それが収入源になるから、銀行への返済も、それだけ楽になりますし、自分の保有する空間も広がります。投資型の民泊がますます普及するのは、**部屋を借りること自体が経済的に有利**だからです。

ちなみに、融資をうけるさい、日本住宅金融公庫だけではなく、日本政策金融公庫をも、ぜひ比較検討するよう、分譲マンションの購入者に私はすすめます。

- 2) **投資型の住宅宿泊（家主不在型）** 地球オアシスに住民票をもたなくとも、そこの一室または数室を借り、または購入して、180 日以内の住宅宿泊事業をおこなうこともできます。

地球オアシス内で、簡易宿所を開設してはならない、というようなことはなく、それを好む者はそのように営業してよいでしょう。**民泊簡易宿所**（外見はひとつの簡易宿所のようにみえても、実は各室の所有者が多少とも区画性と独立性を維持している）が出現するかも・・・

いずれにしても、投資型民泊がおこなわれる部屋は、おなじ階にあるようにするので、ここでも近隣問題と住民とのトラブルなどは、かなり少なくなるようにおもわれます。

- 3) **民泊応用ホテル** 上記 2) が、個々人がバラバラにおこなう住宅宿泊であるとするなら、民泊ホテルのほうは、投資型民泊の部屋の所有者たちが、その合意により、ホテルを経営しようとするもので、外見は一つの完全なホテルのようにみえても、実は各室の所有者が多少とも区画性と独立性を維持している形態です。投資者のなかに有能なホテル経営者がいないと、またそのようなことは多分ありえるので、安全かつ安定的な経営の観点からは、まさにホテル経営者にまかせる選択肢もあり、ここにホテル側との協力関係もできます。

上記 2) の形態では、180 日の利潤しかないが、この 3) の民泊ホテルは 1 年分ある!!

- 4) **一般のホテル** 地球オアシスの、たとえば、6～8 階をふつうのホテルとして経営したいとおもう企業があれば、もちろん、それは可能です。これは、ありふれている形態ですが、一般の個人となると、なかなかそれまでの資金がないですね。

ならば、最良の形態は、3) の投資型民泊の部屋の所有者らが、その運営管理を 4) の経営者にまかせることかもしれません。理由は、ある階がどこかのホテルに属して、その上階の数階に

いけば別のホテルになると(とくに酔っているときなどは)、混乱の原因になるから。なんといっても、3)と4)の統合型が、民泊とホテルの融和と将来の協力をはかる促進剤ともなるからです。

5 地球ホームステイ仲間——地球の花

地球ホームステイ仲間 - この意味のひとつは、地球をすみかとし、地球を大切にし、地球をいま以上に美しく平和にして、かけがえのないこの地球号を将来の世代に渡そうとする友だち、ということであるが、他のひとつの意味は、ふつうのホームステイをし、**地球ホームステイ仲間規約**に賛同している世界中の友だち、ということですね。「地球をすみかとし」とは、老体でもロマンチックな感じがして、とても気にいっている語句です。規約の抜粋は、脚注参照(注1)。

小生は、大学院生時代から、国際法や国際関係に興味があり、その後も大学で、また定年退職後も、長年この分野に関係してきたので、「地球ホームステイ仲間」との私的人格の団体を組織することは比較的簡単でした。いまでは、だいたい400名ほどの仲間がいます。

この「仲間」は、ホスト会員とゲスト会員2種類あって、受け入れ側の「ホスト会員」は、ゲスト会員(お客、宿泊者)から「割引とサービス提供の要望があれば、好意的に」話し合うこと、とされています。この仲間たちは、互恵的關係にありますね。引受け家庭は、割引料金の設定で、多くの仲間を歓迎できるし、他方、ホームステイをするゲストは宿泊料を割り引いてもらえますから。

リラさんは、アメリカ人の「地球ホームステイ仲間」で、ロスアンゼルス市にすばらしい宿泊施設をもっています。この URL <https://www.airbnb.jp/users/show/14618743> でごらんになってください。皆さんが、この仲間になりますと、ここでも割引で滞在することができますね。

現在ホスト会員であるのは、日本、アメリカ、メキシコ、中国、韓国、インドネシア、オーストラリア、ドイツ出身の14名ですが、400名ほどの地球ホームステイ仲間が、「地球オアシス推進仲間」と協力すると大きな相乗効果があらわれるでしょう。両者の相違は、字のごとくです。地球ホームステイ仲間が、ホームステイをめぐる仲間であるとするれば、地球オアシス推進仲間は、諸民族の友好平和のため、地球のいろいろな場所に地球オアシスを開設しようとするものです。

地球オアシス推進仲間の背後には、400名もの同類的な仲間がいるので、心強いでしょう。

(1) 地球ホームステイ仲間規約の抜粋 (EHSAはEarth Home Stay Associateの略。EHSAはイーサ!!)

1) EHSAの目的は、ホームステイ地球化により諸民族の友好と平和を促進することであり、EHSAの原則は、全人類的な立場で、他の観光とホームステイ団体と協力することである。

2) EHSAは、ホスト会員(MH)とゲスト会員(MG)からなる。EHSAには、なんら義務も有さず、 이메일 だけ受信するが、1票の投票権を有するML会員制もある。

4) EHSA会員は、ここに表示されている象徴的なロゴマークをEHSA会長の許可をえて、必要な変更を加え使用することができる。



7)ホスト会員は、ゲスト会員から割引とサービス提供の申込みがあれば、好意的に話し合い、1か月以上の滞在者を紹介するゲスト会員には、それ相応の報酬をしはらうものとする。

8)ホスト会員は、その家族が2名以上からなり、家族全員の同意があるとき受け入れる。

10)ゲスト会員とホスト会員は、相互的に協力することができる。会員が希望するなら、会員は地域住民との協力、地域を世界とむすぶネットワークの構築に参加できる。

11)われらEHSAは何びとも、有料無料かを問わず、自分が運営管理する自宅または別宅に、国内外の諸民族を迎え入れることは、公共の福祉と公序良俗に反しないかぎり、人間に当然認められるべき自己財産の利用で、かつ人間の自然的な権利であると考えます。

12) 諸国の政府に要請するのは、ホームステイにかんする制限を相当に緩和するというよりも、ホームステイを促進する積極的な方策をとり、家計をうるおし、観光を活性化して、税収部門をひろげ、民族間の友好関係を促進し、**真の恒久平和を樹立する**ための予算を増額することである。

以下は、作成中の原稿

6 地球オアシス推進仲間と地球平和友好強化仲間

地球ホームステイ仲間は、地球上の既存のすみかを視野にし、そこで友好的かつ平和に住んでいこうと願う者、ホームステイを重視する若者が圧倒的であるとすれば、地球オアシス仲間は、もっと能動的に行動し、そのような居住空間を意識的に創設していこうとする仲間、ここには実務的かつ実業的な中高年のメンバーが多いです。

地球オアシス仲間が誕生したのは、最近の2017年2月22日ですが、「平和福祉友好館」は、北東アジア共同体平和機構の憲章第53条による限定的なものですから、もっと一般的な母体をも組織化する必要があらわれ、各界各層に広く開門する方針をとったことが、地球オアシス仲間の誕生の背景にあります。地球オアシス推進仲間規約（注1）もありますが、これはサロンのなものにしたいと考えています。

（1）

第1条（目的） 地球オアシス推進仲間（以下、仲間または地球オ仲間）の目的は、つぎの事項に寄与することである。

- 1 全地球的な一体系を勘案し、その機能が国際宿泊である地球オアシスを開設する。余裕があれば、これは文化、体育、その他の分野の空間を併設することができる。
- 2 諸国の国際観光およびホームステイを活発化して、諸民族間の相互理解を深める。
- 3 たんに人間であることに由来する友情を重視し、普遍的な友好平和の一助となる。
- 4 種々の方法を探究し、家計、観光産業、国と自治体財政の総和的な向上をはかる。
- 5 空き室、空き家、空き地を地球オアシス用に活用しつつ、地域経済を活性化する。
- 6 これらの共通目的の達成にあたって、地球オアシス関係者を調和する中心となる。

第2条（原則） われらが仲間は、第1条にかかげる目的を達成するにあたり、つぎの原則にしたがって行動しなければならない。

- 1 われら仲間は、超党派、超宗派、超民族的、すなわち、全人類的な精神に立脚する。
- 2 地球オアシスは、場所、様式、機能、運営、管理などで、多様な形態が認められる。それゆえ、地球オアシスは、私的に開設してもよく、また自治体または国家側からの支援をうけて、公的な性格をおびることもできる。